※結婚記念日お祝い

鈴木　正孝　Ｈ　元.　　５．２８

村山　智城　Ｓ３９．　　５．２８

※ガバナー月信

◇ 3.出席報告

内藤 隆之 副会長

会員総数２７名　本日出席１４名、本日欠席１２名

出席率は５３．８％となります。

◇ 4.ニコニBOX報告

内藤 隆之 副会長

鈴木康仁　残りすくなくなりました。

星野　雄　連休ゆっくり休ませて頂きました。やはり仕事をしている方が気分が良い。またガンバります。

鈴木正孝　結婚記念日お祝いありがとうございます。

村山智城　結婚記念日お祝いのお礼。

白坂義道　本日出張につき欠席させて頂きます。申し訳ございません。

芹川直行　前回欠席のお詫び。

◇ 5. 卓話　　（次クラブ協議会）地区協議会報告Ⅱ

会員増強部門　　鈴木　康仁会員

４月２６日１０時３０分頃、自宅を出発。鎌倉芸術館へ向かいました。途中、長谷川会員より電話を頂き、菊池会員・村山会員と一緒に食事を取り会場へ入りました。ただし、隣の家で不幸があり、５時迄に家に帰らなくてはならなくて、部門別には出席できませんでした。私は次年度、会員増強・会員維持委員長との事。三年連続増強委員長でした笠倉会員のあと、何が出来るか分かりませんが一生懸命頑張りたいと思います。会員増強のターゲットとして、地域社会の成功者、優良企業の代表者、ＪＣ卒業者、元会員の再入会。優秀な女性等あらゆる角度から又、職業分類の未充填候補者等、多種多様のお誘いをし、入会を求めたいと思います。又、クラブによっては「無理な会員増強をするべきではない」「増強のためにクラブが変わる必要があるのか」と言う意見もありますが、２年後、３年後の自クラブの姿について考え、明日の我ロータリークラブのために仲間を増やす様努力致します。又、会員増強・会員維持と共に、会員の例会出席奨励に努め、出席率の向上にも努力して行きます。地域には、ロータリークラブやライオンズクラブ等なくてはならない奉仕団体と考え、一人でも多くの理解者を募り、積極的でロータリークラブにふさわしい人格者にアタックし説得をして行こうと思います。

国際奉仕部門　　芹川　直行会員

来年度、国際奉仕を担当するにあたりざっくばらんにお話を致します。

昔の三浦クラブはＪＩＣＡの国際水産研修センターが長井に三崎から移っても、そこと交流していれば良かった、あり意味から云えば楽だった安直な時代があった訳ですが、幸か不幸か研修センターが横浜に移ってしまった、実際ＪＩＣＡの研修センターは私の家の近所のあるのですが、いつ通っても人気が無く、長井のあった方が活気があったように思います。人が出入りしているのを見たことが無いので何をやっているのかわかりません。ＪＩＣＡも大きくなりすぎたようで、ご存知の方もおられると思いますが、こないだ新型インフルエンザがメキシコで発生し医薬品を早速送ったのもＪＩＣＡで、ＪＩＣＡのマークの付いたダンボール箱やマスクや何や山積みの写真が新聞やテレビにでてきました。

ＪＩＣＡも大きくなって縁も遠くなり、何をやったら良いかと云うことで、昔私が入会した時は５０人を超える諸先輩がおりましたが、今はこじんまりした人数で、あまり大きなことも出来ません。ただ、今年度から次年度にかけて、当クラブから小田つかささんと云うお嬢さんをオーストライアに送り出しますので、国際奉仕も新世代あるいは社会奉仕と、ある意味で境目なしにやるしかないのかなと思っております。

現実問題として三浦市はウォーナンブールと姉妹都市でもあるので小田さんを中心として日本とオーストラリアの懸け橋になれば良いのかなとと思案中であります。

そのほか良い考えが出れば皆さんにご協力をお願いするつもりでありますのでよろしくお願い致します。

ロータリー財団　　内藤　隆之会員

1. 基調スピーチ：竹内万也リーダー

ロータリー財団についての用語の説明

財団はあくまでロータリーの財団であることを再認識すべき

2. 財団増進について（ポリオプラスを含む）：神田達治サブリーダー

ボリオ撲滅運動に関するＤＶＤ
ゲイツ財団チャレンジ補助金とロータリーの２億ドルチャレンジについて
3. 財団奨学金・財団学友について：高木直之サブリーダー
　　意識改革の意義について
4. 研究グループ交換（ＧＳＥ）：杉崎一雄サブリーダー
5. 財団補助金について：鈴木和夫サブリーダー
6. 世界平和フェローシップについて：小川忠久サブリーダー
7. 質疑応答

米山奨学会　　高木　　巖会員

　米山奨学委員会部門に出席してきました。
　米山奨学事業は日本ロータリーの創立者米山梅吉氏の遺徳を記念して１９５３年に始まりました。戦後の昭和２８年から始まりまして今日迄に５６年の歴史があります。世界大戦争をひきおこし、そして戦争に負けた日本にとってこれからの日本はどのように生きていかなければならないか。武力を使ってはいけない。日本の生きる道は平和しかない。それをアジアや世界に理解してもらう為には、一人でも多くの留学生を迎え入れて、平和を求める日本人と海外の人々の交流を深め、信頼関係を築くことが日本のロータリーにとって最もふさわしい国際奉仕であると考えられました。民間外交として世界に平和のタネを蒔くという米山記念奨学事業の使命は一貫して今日迄続いています。
　米山奨学部門のリーダーは鎌倉ＲＣの前ガバナーを務められました中西功様です。前の鎌倉市長です。サブリーダーは４人いられまして、秦野ＲＣの宇山さんもいられました。この方は三浦タウンニュースを出していられる方です。米山についてどんな話をされるか大変興味を持って話をよく聞いてきました。他の奉仕団体はお金を出して終わりになりますが、米山記念奨学会は「世話クラブ・カウンセラー制度」を設けています。ロータリーと交流を深め、また精神的ケアを重視するのが特長です。地域のロータリークラブから世話クラブが選ばれ、その会員の中からカウンセラーが付いて、奨学生との交流を深め、日本での生活が心豊かになるように配慮しています。三浦ＲＣが世話クラブに選ばれた時は菊池会員がカウンセラーとして親身にお世話をされました。

（韓国の女性、尹　　韓羅さん）
以前は松崎会員も中国の方のカウンセラーをされました。
年間の奨学生採用数はおよそ８００人です。寄付金事業費は１５億円です。国内では民間最大の奨学事業となっています。日本のロータリアンは９５，０００人いますから、一人あたりの寄付は１６，０００円です。寄付の一番多い地区は２５９０地区で１人約３０，０００円。少ない地区は２５４０地区で５，０００円。私達の２７８０地区は２０，０００円です。この金額のへだたりは大学の多い地区が寄付が多くなっています。奨学生一人あたり年間１９０万円を使っていることになります。
　米山奨学事業につきましては地区大会で決議５号をロータリアン全員が拍手をして採択しています。
（決議５号）
　ロータリー米山奨学事業に対する理解と寄付協力に関するプログラム推進の件。その中に「米山記念奨学会へ一人２万円以上の寄付目標を推進し、その寄付金を米山奨学会に贈呈することを決議します」となっています。そういうわけですので、米山奨学生に対する寄付金として一人が年間で２万円を目標にお願いします。
寄付の種類
特別寄付⇒任意でいただく寄付
普通寄付⇒クラブで決まった金額を会員数分寄付。
三浦では会で一人１万円出ています。皆さんの年会費の中から支払われています。
話の内容は、米山の主旨をよく理解してもらえれば、お金は後から集まってくるから、米山の内容をよく折に触れ説明するようにと言う事でした。

次回５月１４日の例会は５月９日(土曜日）に変更して長谷川農園でのイモの苗床作りに変更しました。
５月２１日も苗植えを行います。